

〔2024 研究成果トピックス〕

農業関係試験場が開発した新品種・新技術を紹介

長野県内の農業・畜産関係の5試験場では、県内の農業者の皆様に活用いただく新品種・新技術を開発しています。令和6年度に開発した中から、主な研究成果を4つ紹介します。詳しい情報は、農業関係試験場のホームページ(<https://www.agries-nagano.jp/research>)に掲載の「農業技術レーダー第32集」をご覧ください。

右の二次元コードからもアクセスできます



【新品種】 高温に強い水稻「信交 559 号」

気候変動下でも良質な米を安定的に生産できる新品種を開発しました。(令和7年度品種登録出願予定)



信交 559 号 あきたこまち



信交 559 号



あきたこまち

- 高温条件で白未熟粒の発生が少ない
- 斑点米の原因となるカメムシ類の被害を受けやすい割れ粳の発生が少ない
- 茎が強く倒れにくく、栽培しやすい

【新技術】 アスパラガス柵板式高畝栽培の導入に活用できる技術

排水が良くなり生産性が上がる「柵板式高畝栽培」において活用できる関連技術を開発しました。



アスパラガスの柵板式高畝栽培



堆肥半分 (50%)



堆肥なし (0%)

異なる堆肥の混合割合による根量の比較

- 古い株をそのまま埋めて盛り土(客土)した場合、植え替えした場合と比べて収量は同等以上
- 客土に堆肥を使うと根量が増え初期生育が良好で増収する

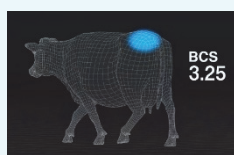
【新技術】 深度カメラと AI による牛の体型測定システム

デジタル画像から AI が牛の体型等を分析するシステムを民間企業と共同開発しました。



深度カメラによる測定

画像提供: セイコーエプソン(株)

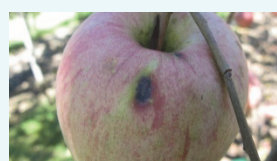


AI による解析イメージ

- 牛の健康管理に必要な肥満度、体重、体高などのデータを高精度で取得できる
- 1 頭あたり約 10 秒で判別できる

【新技術】 リンゴ褐斑病の発生生態と防除時期の解析

近年多発傾向のリンゴ褐斑病を効率的に防除するため発生生態を解明しました。



リンゴ褐斑病の病徴



子のう胞子

- 温暖化により約 20 年前と比べて伝染源(子のう胞子)の飛散開始は 10~20 日早い
- 発生初期の 6~7 月の発生量が増えている

確かな暮らしを守り、
信州からゆたかな社会を創る

しあわせ信州創造プラン 3.0

~大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために~

[長野県総合5か年計画推進中]

(問合せ先)
担当 長野県農業試験場
研究企画・知的財産部
栗原、山岸
TEL 026-246-2412(直通)
FAX 026-251-2357
E-mail
nogyoshiken@pref.nagano.lg.jp

(問合せ先)
担当 長野県農政部
農業技術課研究普及係
宮澤、細井
TEL 026-235-7220(直通)
FAX 026-235-8392
E-mail
nogi@pref.nagano.lg.jp